

【工夫のポイント】

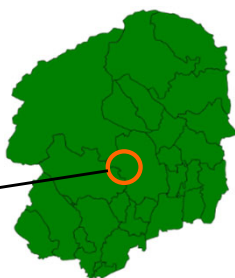
- 宇都宮市は、大谷石の地下採掘場跡地の冷熱を活用して栽培するいちごの産地化を計画。
- いちごの産地化に向けて、企業2社等が事業実施主体となり、ほ場の大区画化や農道の整備等の基盤整備を実施。
- 農地バンクを活用し、地区内農地の約9割を企業2社に集積することでいちご団地を創設。
- 近隣の道の駅などで生産したいちごを販売するほか、ジャムに加工し、販売するなど多様な販路を確保し収益力を向上。

【取組地域の概要】

○位置 うつのみやし
栃木県宇都宮市

栃木県

かみこまにゅう
上駒生地区



- 主要作物
・いちご
- 主な支援施策
・農地耕作条件改善事業 (R2～R4)
・園芸作物生産施設等整備事業(R3～:市単独)

基盤

補助事業を活用したいちご生産の環境づくり

企業2社等が事業実施主体となり、ほ場の大区画化や農道の整備等の基盤整備とともに、市の事業を活用したハウス建設(R3～)により、いちご生産の環境づくりを推進。



整備後

基盤整備
(R3年～)

【整備前】

ほ場は狭小で不整形なうえ、農道に接していないほ場が多く、農作業に支障を来しており、耕作放棄が懸念。



整備前(不整形な区画)



狭い農道

生産現場

冷熱エネルギーを活用したブランドいちごの生産

- 地下採掘場跡地の冷熱を地上に引き上げ、いちごの株元を冷やし収量増を図る「クラウン冷却」という栽培方法で、「大谷夏いちご」の生産を開始。



いちごの栽培状況

加工・流通

収益力向上につながる多様な販売経路

- 生産したいちごを県内ケーキ店や近隣の道の駅で販売するほか、自社工場でジャムに加工し販売することで収益力向上を図っている。

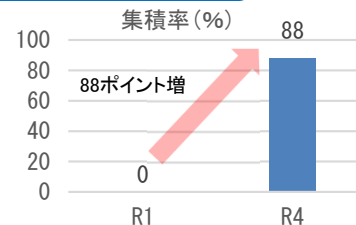


いちごジャム

担い手

農地バンクを活用した担い手への農地集積

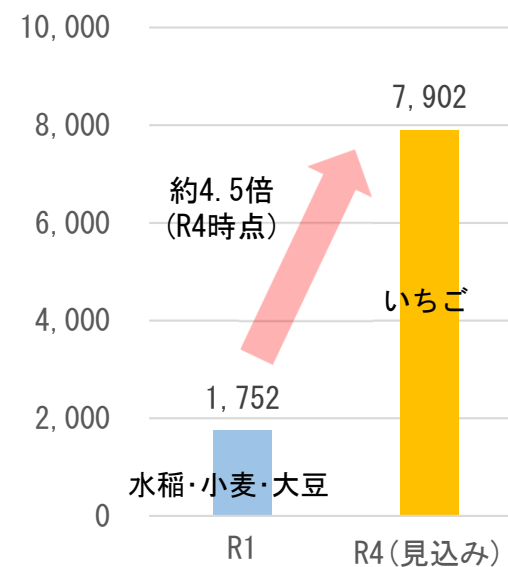
- 基盤整備に併せて、農地バンクを活用し、地区内農地の約9割をいちご生産の担い手である企業2社に集積。



高収益作物の生産拡大

- いちご団地の創設により、水稻中心の作付から高収益作物へ転換し、収益向上を図る。

生産額(千円)



※生産額は県の平均的な単収、単価を用いて試算